

千代田まちづくり サポート通信

2023 OCTOBER ISSUE No.41

2023
10

OCTOBER



第23回
千代田まちづくりサポート
公開審査会
～暑さに負けない熱いメッセージ～

[目次]

- P1~2 事業・公開審査会概要
- P3~12 応募グループの活動・発表概要、審査会委員のコメント
- P13 会長総評、審査会委員
- P14 まちサポ事務局 topics
- P15~16 公開審査会写真集
- P17~18 活動マップ

まちづくりー！ さあ、はじめよう！

Chiyoda No Machisapo



千代田まちづくりサポート（まちサポ）は、千代田区内で自主的なまちづくり活動を行っているグループに対して、その活動経費の一部を助成する事業です。

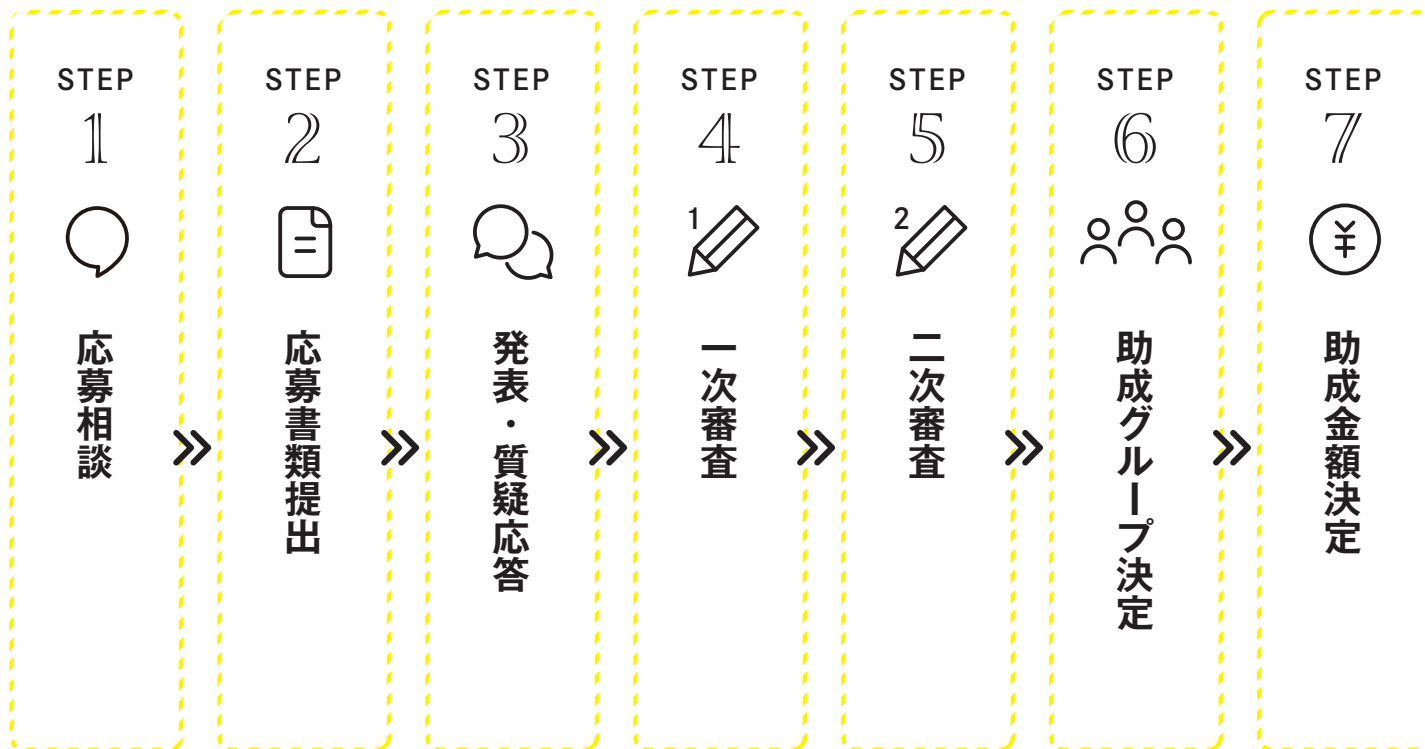
新型コロナウイルス感染症対策のための行動制限が緩和され、区内の「まちづくり活動」も活発になってきました。今年度のまちサポにも多種多様なテーマを掲げるグループから応募がありました。公開審査会は、審査会委員とグループとの白熱の議論だけでなく、新しい視点や気づきを得たり、千代田のまちづくりを担う志を持った人々のネットワークづくりの場にもなっています。

本号では、令和5年7月23日（日）に開催した、第23回千代田まちづくりサポート公開審査会の様子をリアルに伝えます。



Process

公開審査会（一般部門）のプロセス



第23回千代田まちづくりサポート 公開審査会



- 【開催日】 令和5年7月23日(日)
- 【会場】 ちよだプラットフォームスクウェア5階
- 【内容】 応募グループの活動発表とそれに対する質疑応答・審査を行い、助成グループと助成額を決定しました。
なお、審査会の様子は「YouTube」でライブ配信しました。

概要

【応募グループ数】 12グループ	【助成グループ数】 10グループ	【助成額総額】 332万円
---------------------	---------------------	------------------

【第23回の募集部門】

- はじめて部門（1年間のみ）一律5万円
はじめたばかりのまちづくり活動に対して助成します。
- 一般部門（最大3年間）5～50万円
継続して自立を目指すまちづくり活動に対して助成します。

【審査基準（一般部門）】

- ①千代田区内における市民の主体的なまちづくり活動
- ②地域に元気をもたらし、コミュニティの活性化に貢献する活動
- ③住み・働き・学びやすく、魅力的な都市環境づくり活動
- ④まちづくりに対する新しい視点である活動

【審査の流れ（一般部門）】

- ①発表・質疑応答
- ②一次審査
発表と質疑応答を踏まえ、審査会委員が一次審査表に記載された各項目のいずれかに赤色・黄色・青色のシールを貼る。それに基づき、審査会委員が追加質疑を行う。
- ③二次審査
審査会委員が「活動を支持するグループ」へ緑色のシールを投票する。過半数（4票以上）の票を得たグループが助成対象となる。
- ④助成額の決定
助成対象となったグループの申請額を精査し、助成額を決定する。

Program

- 13:00 開会
- 13:20 [一般部門] 活動企画内容の発表①
発表・質疑応答（各グループ8分）
- 14:20 休憩
- 14:30 [一般部門] 活動企画内容の発表②
発表・質疑応答（各グループ8分）
- 14:50 [はじめて部門] 活動企画内容の紹介
発表・質疑応答（各グループ8分）
- 15:20 休憩
- 15:30 [一般部門] 審査方法等の説明
- 15:35 [一般部門] 一次審査・追加質疑
- 16:20 休憩
- 16:25 [一般部門] 二次審査・追加質疑
助成グループ決定
- 16:55 まちプラからのお知らせ
- 17:10 [一般部門] 助成額の発表
- 17:15 審査会委員講評
- 17:35 事務連絡
- 17:40 閉会

審査表

部門	回数	応募グループ名	一次審査												二次審査					申請額 (万円)	助成額 (万円)	頁																										
			●活動内容を支持し、今回のサポート助成が必要だと考える。	●活動内容についてもう少し話を聞き、今回のサポート助成が必要か判断したい。	●意義ある活動内容だが、サポート助成の趣旨にはなじみにくいと考える。	●活動内容を支持する。																																										
一般	3	番町っこ倶楽部	●	●	●	●	●	●	●																50	50	3																					
	2	神田藍の会	●	●	●	●	●	●	●																	50	50	4																				
	2	あるまっぶ CHIYODA		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	50	50	5																				
	1	tea plant club	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	50	50	6																				
	1	まちづくり・地域政策研究会	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	21	21	7																				
	1	一般社団法人ちよママ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	46	46	8																				
	1	エンジョーイ歌ンターレ CHIYODA	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	50	50	9																				
はじめて	-	スナックちよだ																																							5	5	10					
	-	アマルフィファーム																					書類審査で助成を決定																				5	5	11			
	-	ちよダン																																													5	5

※なお、一団体につきまして助成取り消しがありました

番町っこ倶楽部

第8回 馬と遊び、馬に学ぶ@番町の森



【代表者】佐藤 洋平 【活動メンバー】7名 【主な活動地域（場所）】番町の森 【部門】一般部門（3回目）

活動概要

番町っこ倶楽部は、地域の住民、企業、行政の皆様のご支援・お力添えを頂きながら「馬と遊び、馬に学ぶ」のプログラムや「番町の畑」「番町の食卓」等の地域コミュニティ活動を通じ、持続可能な活動を行っています。

発表概要

番町っこ倶楽部は「愛を以って、共に育む」をモットーに、番町地域を中心に活動しているコミュニティサークルです。番町の庭ができて、地域の馬との体験イベントを始めたところからスタートしています。

メンバーが少しずつ増えてきました。まちづくりパートナーと勝手に呼んでいますが、まちづくり・地域研究会の井澤さんが「麴町を麴の町にする」という、面白いことをされるので「ぜひ一緒に」と、横のつながりも少しずつ増えてきています。

年間のスケジュールについて、5月、6月、7月にイベントを行いました。現在、とうもろこしとこんにゃくを育てています。そのとうもろこしは先週収穫して食べました。もう少しすると、その様子がYouTubeで公開されると思います。以前から活動をより強固にしていくために、事務所を構えようと考えていました。地域に「まちづくりのサロン」を作るといったので、私たちもそこに参加しています。

8月は、日テレの盆踊りに参加します。横のつながりを重視しているので、今までできていなかった番町の食卓を、交流会という形でできればと思っています。

9月は、こんにゃくを収穫して、こんにゃくのワークショップを行います。11月は、メインの馬のイベントです。今年は11月26日に開催します。12月は、クリスマス会やケーキ作り、忘年会を計画しています。2024年1月は、新年会をして、来年度につなげていく活動「番町タウンミーティング」を準備したいと思っています。

皆さんのおかげで、今まで苦労しながらやってきたイベントも、費用面でサポートいただいて、次の企画を考える時間を設けることができました。「番町タウンミーティング」というイベントを、これから継続して行っていくための機会にすることができました。今年の下期はこの準備を行っていききたいと思います。



Q & A

- Q 今年助成金を得られると来年卒業です。自立プログラム、収入の見込みについて教えてください。
- A 費用に関して、過去2回助成いただき、本当にありがとうございました。その間に活動の幅が広がりました。畑が完成し、また、おにぎりのワークショップも開催することができました。その経験から、地域住民に食や農業等に関心があり、そのニーズがあるとわかってきました。馬のイベントは、これまで協賛を得て、運営をしてきたので、これをすぐに収益化するのは難しいと思います。このイベントを地域貢献の大きな柱にするために、畑の苗などを販売し、その管理は私たちが行い、収穫イベントで収益を得られるようにしたいと考えています。
- Q 事務所の所在地を教えてください。また、この費用が収支計画に計上されていない理由を教えてください。
- A 四番町の日テレ通り沿いに、日テレ通り振興会さんと日本テレビさんによるエリマネサロンがあり、その中に事務所を借りています。今回の予算は、馬のイベントに充てているので、事務所費は計上していませんが、番町っこ倶楽部自体の運営の中では、費用が発生しています。
- Q 昨年までの活動を通じて、「番町タウンミーティング」で取り上げたい話題などはありましたか。また、どのような人を対象に、どのようなことを話し合っ、どのような活動をして行こうとお考えですか。
- A 先ほど区長も話されたように、新たに千代田区に住みはじめた人が既存のコミュニティとどのようにしてコミュニケーションを図るのかという課題があります。私たちはイベントを通じて、子どもやその家族とコミュニケーションを図っています。番町という「まち」について、私たちはいろいろ考えています。住宅街でもオフィス街でもない番町には、さまざまなプレーヤーがいます。その人たちの話を聞きながら、まちのあり方、現状を少しずつ理解していきたいです。

審査会委員のコメント

番町っこ倶楽部の中心の活動となる「馬と遊び、馬に学ぶ」プログラムは、すでに完成されたプログラムだと思えますが、より多くの人たちが体験できるようにと改善し続けている点を評価しています。本助成の終了後もこの充実した活動が継続されるよう、最終年度も引き続き活発に取り組んでいただけたらと思います。これまでの活動成果を生かして、今後、地域のまちづくりに広く携わっていただくことも期待しています。



審査会副会長
三友 奈々

02

神田藍の会

神田を藍（愛）でいっぱい 2023
～ Ai Love KandA ～



【代表者】伊藤 純一 【活動メンバー】10名 【主な活動地域（場所）】神田地域 【部門】一般部門（2回目）

活動概要

藍という植物を自宅や街で1年かけて栽培することで、子どもから高齢者まで学び、育て、楽しむと同時に、日常会話やイベントで顔を合わせるきっかけにします。藍が人と人、人と街、人と歴史文化を結び合わせると考えます。また、まちの課題や情報を対話により深めていきます。

発表概要

昨年、審査を通過して、助成金を得ることができました。その助成金は、大切に使い、神田藍の活動を広げるために役立てました。活動成果発表会では、活動が評価されて、サポート大賞を受賞することができました。このことは、とても励みになり、また、この活動をしているプロジェクトメンバーはとても喜んでいました。

まちサポで知り合ったほかの活動グループとミーティングや情報交換をしました。藍を育てる人、藍を育てる場所を貸していただける人が徐々に増えて、活動の広がりを見ることができました。

何よりも、私たちの会のプロジェクトメンバーが、この活動に積極的に協力してくれています。それぞれのメンバーが、それぞれに活動を持って、役割や担当を持って進めており、主体的な活動になってきました。会のプロジェクトメンバーには、本当に感謝しています。

会の活動は藍を育てて藍染めをする、藍を中心に人々をつなぐ活動です。このような活動をしなが、藍を栽培していただける人を増やしてきました。猛暑の中でも、皆さんには、工夫をして育てていただいています。

これからの活動は、今までと同じように藍を育てる場所、育ててくださる人をたくさん増やしていくことを中心に考えています。ただ、すでに個人だけでなく、企業にも藍を育てる活動に参加してもらっており、設置した神社などを通じて活動が広がっています。藍を真ん中において、藍染め、藍を育てる、そのような活動をしなが、人々がどんどんつながっていくのを日々実感しています。



Q & A

- Q 応募用紙に記載している中で「今年が一番これを頑張りたい」「特にこれをやりたい」ということを教えてください。
- A それぞれの活動は、各メンバーが持ち寄った活動のため、それを会として「みんなで応援しよう」という体制になっています。特に特定の活動に力を入れようとは考えていません。町会や縁日での活動の話ももらっており、協力したいと考えています。
- Q 応募用紙の活動展望に「植物相手のため成功も失敗もあることが、反対に『物語』として厚みを作っている」と声があがるようになってい」と記載があるが、失敗をどのように共有されているか教えてください。
- A 藍は非常に強い植物ではありますが、水が不足するとしおれます。水を与えれば元気になりますが、はじめてそれを見ると枯らしてしまったと勘違いしてしまいます。成長が良くないところには、追肥するなど、テクニク的なことも含めてアドバイスしています。皆さんが、自ら経験することでやる気がわいてくるように、周りの知っている方々がそれぞれつながってサポートしている状態です。
- Q 実施スケジュールにある「九段生涯学習館での小中学生対象藍染体験会」の募集方法を教えてください。
- A 九段生涯学習館の事務局が学校も含めた各所に案内してくださっています。すでに多くの応募があるようです。
- Q 今後の自立についてどのようにお考えですか。
- A 今は焦って収益化を図ることを考えてはいません。個人だけではなく、企業にもこの活動に関わっていただけるようになってきました。そのような中で、企業によって新しい商品が作られたり、会のメンバーがおつなぎすることによって事業が始まったりしています。収益については、今後の活動の展開の中で考えていきたいと思っています。

審査会委員のコメント

藍という植物を育てることを通じて地域に関係する子どもから高齢者まで多くの方々に関わりを持ち、その結果コミュニティの形成につながっています。申請は2年目だが活動は3年目になり徐々に充実した活動内容となってきています。特筆すべきは代表者の知り合い周辺のみならず、神田地区の町会、企業や神社、さらには小中学生対象の藍染体験会開催計画など多岐に渡ってきています。活動グループの発展のポイントは植木鉢等で植物を育てるという比較的入り込みやすいツールを介していることだけではなく、メンバーがおのおのの組織のリーダーのように活動できていて、その集合体になりつつあるところ。その集合体を支えるリーダーと支援者の力量も高く、今後の運営に期待がかかります。



審査会委員
柿内 健介

03

あるまっぷ CHIYODA

すれ違い際に「こんにちは」と挨拶ができるまちへ



【代表者】山森 彩香 【活動メンバー】3名 【主な活動地域（場所）】番町・麹町・九段下地域 【部門】一般部門（2回目）

活動概要

千代田区内の企業や飲食店、地域に根差した活動を行っている人取材し、フリーペーパーとして発行します。また、あるまっぷの活動がはじまった番町・麹町地域の区民や企業、地域活動団体等を対象とした「マップを広げたアイデア交換会 & 交流会」を開催していきます。

発表概要

あるまっぷ CHIYODA の全体活動「理想のまちづくり」とそれに付随する活動を紹介します。

はじめに、フリーペーパーの「あるまっぷ」を不定期で発行しています。こちらは、まちサポの助成金で発行したいと思っております。そのほかの活動として、千代田区役所のカフェ & バー桜日和の運営とイベントの開催です。キーワードは「共感」と「ゆるやかなつながり」です。

昨年の「あるまっぷ」の発行回数は、当初計画していたものよりも大幅に少なくなっていました。今年は発行部数を減らしますが、代わりにウェブページやイベントでカバーしたいと考えています。「あるまっぷ」は「すれ違い際に『こんにちは』と挨拶ができるまちへ」をコンセプトに、千代田区内の飲食店や企業等を誌面で紹介しています。それをきっかけに人との会話やつながりが生まれることを期待して発行しています。

また、誰でも来られてつながる場所として、千代田区役所のカフェを運営しています。

今年は、コロナが落ち着いたので「やりたいとできるがつながる」というコンセプトで、イベントも開催したいと思っています。自分と同じ思いを持っていたり、やりたいことがある方が一緒に手を組んで実現していけるものです。そういうことを自分もしていきたいですし、そういう方がいたら、そのサポートもしていきたいです。

6月21日には、番町・麹町地域の人たちを対象とした「マップを広げたアイデア交換会 & 交流会」を開催しました。参加者の皆さんは、同じ地域に住んだり働いているので、会話が盛り上がりました。「地域の目に見えない歴史を掘り起こしていろんな人に伝えたい」「日曜日の過ごし方を地域の人に紹介してもっと盛り上げたい」といった意見がありました。

私の考えるゆるやかなつながりは「今ここで物語が始まるようなまち」だと思っています。

審査会委員のコメント

フリーペーパーである「あるまっぷ」の発行を通して、ゆるやかなつながりを目指す活動は、ネットの中のつながりが強くなりながら時代だからこそ、ますます必要であると感じています。今年度は、すでに6月に「マップを広げたアイデア交換会・交流会」と題したイベントを主催し、実際につながることができたことが大きな成果かと思えます。ぜひそこで得たつながりをさらに今後の活動に生かしていただくことを期待しています。



審査会副会長
三友 奈々

Q & A

- Q 昨年冊子は1回の発行に留まりましたが、今年は4回発行の計画となっています。昨年の課題を踏まえた工夫や改善点について教えてください。
- A 今年第1回目の原稿の入稿が間近になっています。昨年は、先方との調整で発行に遅れが生じてしまったこともありますが、スケジュールは順守するようにします。大学生とのつながりができたので、学生さんに取材に行ってもらったりしています。今年は一人で抱え込まないように考えています。
- Q 活動を長く継続してほしいと考えています。今後、自立していくための動きがあれば教えてください。
- A 冊子については、広告費をいただけたらいいなと思っていますが、今は、それよりも他の部分でやっていきたい気持ちが強いです。例えばイベントを開催する時に、地域の飲食店さんからコーディネート費をいただいています。そういった中で発生する仕事をやっていきたいです。
- Q 6月21日に開催した「アイデア交換会 & 交流会」の狙いを教えてください。
- A やりたいことがそれぞれある方が集まってくださいました。1人ではなかなかできない企画、例えば自分が持っているまちあるきのコミュニティだったら、そこと例えばスポーツクラブをされている方と一緒にコラボをして、何かイベントを企画しようとか、そういうお話がありました。
- Q 情報交換と新たな活動創出の機会を狙いとして開催されるということですか。
- A そのとおりです。



04 tea plant club

メイドイン千代田の紅茶づくりプロジェクト



【代表者】加藤 幸子 【活動メンバー】6名 【主な活動地域（場所）】番町の森、神田駿河台ほか 【部門】一般部門（1回目）

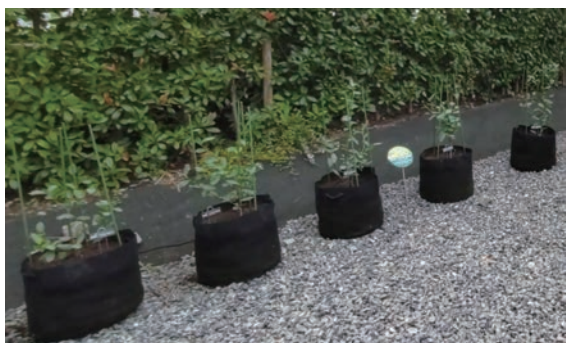
活動概要

千代田の土地で茶の木を育て、メイドイン千代田の紅茶作りに取り組んでいます。「茶飲み友達」ではなく「茶作り友達」ができます。生葉から紅茶を作るイベントを企画し、近隣の人たちの交流を図ります。都会の子どもたちに、自分の口に入るものが「どこで、どのように作られるのか」を茶の木を通じて学んでもらいます。

発表概要

提出をした応募用紙に沿って、活動内容を発表します。今年の活動内容は、大きく3つを掲げています。1つ目ですが、茶の木設置の拡充です。ちよだプラットフォームスクウェアを含む、3か所に設置を予定しています。設置は9月以降を考えています。詳細等は、設置場所の担当者と打ち合わせをしながら進めます。2つ目は、イベントの開催を2回予定しています。イベントは講師を招き、アットホームなイベントにしたいと考えています。10月に手作り紅茶のイベント、翌年2月には国産紅茶5種類の飲み比べ等を検討しています。

イベントを開催することで、区内の設置している茶の木への思いが育まれることを期待しています。私たちの活動に賛同いただいている大妻女子大学の森正司名誉教授や同校の学生とも連携して活動を行います。また、地域の町会等にも活動をアピールして、地域交流の輪を広げていく予定です。



Q & A



- Q 茶の木の栽培の拡充にかかる管理上の不安や課題があれば教えてください。また、収支計画に記載されている備品の発酵器の金額の妥当性や必要性も教えてください。
- A 管理については、小さい苗木なので水やりのみということになります。また、寒冷紗を用いることで害虫への対応が可能だと思っています。発酵器はイベントで使用します。家庭教室のようなところでイベントを行う際に、ホットプレート等を借りることは可能だと思っています。しかし、この発酵器を借りることを難しいと考え、費用計上しました。発酵器は茶の葉を発酵させる必要があることから、活動に必要なものです。
- Q 応募用紙の活動展望3年目に「100%純粋千代田の紅茶を完成させる」と記載がありますが、その見込みや可能性について教えてください。また、どのくらいの収穫量を見込んでいますか。
- A 3年経過すると茶の木は成長します。成長段階である程度の量は収穫できますが、継続して茶摘みを行うには、1、2年ほど成長を待たほうがよいと考えています。収穫量はある程度的人数で茶摘みができる程度かと思います。
- Q 活動場所をどのように考えていますか。エリアを絞るのか、それとも千代田区全域に広げていくのか、現在の構想を教えてください。
- A 現状は番町・麴町エリアでの茶の木の設置が多いです。設置を許可してくれる場所があれば、特にエリアは問わないつもりです。

審査会委員のコメント

栽培場所の確保が困難な千代田区の地域特性にあって、独自に場所を確保する行動力には敬意を表します。「茶飲み友達を増やす」「茶づくり友達を増やす」という活動コンセプトも、まちづくりサポート事業の趣旨に合致するものとして評価しています。

3年後には100%千代田区産の紅茶を作ることが活動目標ですが、銀座の小さな雑居ビルの屋上からスタートした養蜂事業である「銀座ミツバチプロジェクト」のように、茶がつなぐコミュニティの輪が広がるとともに、将来的には、千代田区の新たな特産品の創出を期待しています。



審査会委員
保科 彰吾

05

まちづくり・地域政策研究会

麴町を“麴の町”にするプロジェクト

【代表者】井澤 和貴 【活動メンバー】5名 【主な活動地域（場所）】麴町地域 【部門】一般部門（1回目）

活動概要

「麴町」は千代田区のほかのエリアと比べて知名度が低く、特に土日は人の流れが少ないので、人の流れを新たに作りたいと思います。「麴町」の地名は、その名のとおり大豆や穀物を発酵させる「麴」の店が多くあったことに由来している説があり、この特徴的な「地名」を広く知ってもらうことで、地域活性化に貢献したいと思います。

発表概要

昨年、はじめて部門に応募して助成金を得ることで、坂の紹介マップを作ることができました。今年の活動は、地域に根付くという意味合いでは一致していますが、少し変わった企画を考えています。

私たちのグループは、まちづくりの研究や調査を行う、法政大学大学院の政策創造研究科出身者で構成しています。修了後もつながりを作りたくて、大学のあった千代田区を中心に、地域の魅力の再発見につながる調査や地域コミュニティのあり方、地域協働などの研究を行っています。

2021年にグループを立ち上げ、まち歩きをして、さまざまな魅力を発掘しました。2022年に地域コミュニティ醸成支援事業の運営事務局であるエンバブリック主催の「ちよだらポライブ！」に参加しました。その後、千代田まちづくりサポートに応募して、現在に至ります。

今年の活動テーマは「麴町を“麴の町”にするプロジェクト」です。麴町の由来は、諸説あるようですが、麴の大豆などの穀物を発酵させるお店が多かったためようです。町内に小さな路地「小路」が多かったためという説もありますが、特徴的な地名を知っていただきたいという意味で、麴町と麴を引っかけてみました。

活動内容を冊子とホームページで発信し、また、麴に関するワークショップの開催を予定しています。ワークショップの講師は、法政大学の同級生で、静岡市で空き家を活用し、麴を使ったカフェをしている運営している方に依頼します。また、番町っ子倶楽部の佐藤さんにも協力をお願いする予定です。

2. テーマについて

テーマ：麴町を“麴の町”にするプロジェクト

- ・麴町は特に土日の人の流れが少ない
- ・麴町はその名の通り大豆や穀物を発酵させる麴の店が多くあったことに由来しており、特徴的な地名を広く知っていただき、地域活性化に貢献したい

Q&A

- Q 麴町で活動されることで、その地域の町会や商店街の人に相談する予定はありますか。
- A 相談したいと考えています。現在、グループメンバーに千代田区在住者がいません。昨年は、会場が見つからなくて本当に困りました。そういった課題を解決するべく、活動パートナーを広げたいと考えています。そのため、番町っ子倶楽部の佐藤さんに会場やワークショップについて相談しました。麴町の町会長からの情報などもいただきたいと思っています。
- Q お菓子作りの具体的なプランがあれば教えてください。
- A 2年目、3年目に麴町の名前を使ったお菓子を作りたいと考えています。実際に作るのは静岡市の方かもしれませんが、そこから材料を提供してもらい、出来上がったお菓子を麴町で販売します。まずは、名前を知ってもらうことから進めていきたいと思っています。今年のワークショップは、カフェの運営者に相談した結果、醤油作りや味噌作りが良いとのアドバイスがあったので、調味料を作ること考えています。
- Q 江戸時代に麴を扱っていた商店がある麴町ですが、当時の麴を再現するような取り組みや展開は考えていますか。
- A 麴の再現は考えていませんでしたが、話を聞いておもしろいと思いました。
- Q 昨年と活動テーマが変わりました。昨年の掘り下げや蓄積を活用される予定はありますか。坂の調査時の協力者のコミュニティなど、人のつながりをうまく活用できれば良いと思います。
- A 個人的に地名が好きなので、考えられるのは歴史のつながりぐらいかなと思います。当初からいるメンバーの結束は強いと思っています。
- Q ワークショップにはどのような人に参加してほしいですか。また、そのような人たちに参加してもらうには、どのようなことが必要だと考えていますか。
- A 参加してもらいたいのは地元の人です。大学に通っていただけでは、地元とのつながりがなかったので、地元の人に参加してもらい、つながりを持ちたいと考えています。チラシの配布、地域イベントへの参加時にアプローチを試みます。



審査会委員のコメント

昨年の「坂」の研究から一転、麴町の町名由来とも思われる「麴」について調査し、将来的には「麴」を使ったお菓子なども作って販売する予定もあるということなので、ぜひとも麴町や千代田の名産品ともなるように期待したいです。麴町の町名の由来は諸説ありますが、健康食品でもある「麴」に目を付け、わかりやすいテーマとなっていますので、参加者にもなじみやすいと思われます。活動においては地元との接点を持ち、うまくつながっていくことが成功へのヒントになるのではと思われます。



審査会委員
小野寺 健志

06

一般社団法人ちよママ

SNS を活用した千代田区の子育て 情報発信および、 子育て世帯のネットワークづくり

【代表者】勝連 万智 【活動メンバー】3名 【主な活動地域（場所）】千代田区内全域 【部門】一般部門（1 回目）

“区内で子育てをする
すべてのひとの「楽しい」がコトに”



活動概要

千代田区における子育てに関する情報について、包括的かつタイムリーに有益な情報を把握し、Instagram・Facebook・LINE Business 等の SNS アカウントを利用して、より角度の高い情報を子育て世帯に届けていきたいと考えています。

発表概要

ちよママは任意団体として 2014 年に千代田区在住の子育て中の保護者により設立され、設立以降千代田区内の子育て世帯向けのイベント開催、SNS を通じた情報発信を通して子育て世帯が地域を知り、根付くきっかけづくりを提供してきました。

千代田区は、現在約 7 万人の人が住んでいますが、その中で 0 歳から 9 歳の子どもを持つ子育て世帯は、約 4 千世帯とされています。約 7 万人中の 4 千世帯ですので、区内の同じエリアに住んでいる、同年代の子どもを持つ世帯に出会うことは、とても難しいと感じています。私自身は結婚を機に 11 年前に千代田区に引っ越ししてきましたが、この少ない世帯数では、情報の流動性に課題があり、待つだけでは子育ての情報が得られず、当時とても困ったのを覚えています。また、新旧住民の情報格差も大きく、こういった課題を解決したいという思いから、ちよママを設立し、千代田区内で約 200 回以上のイベントを開催してきました。しかし、コロナ禍でイベントを開催することができなくなり、SNS を活用した子育て情報の発信する活動を始めたのが今回の応募のきっかけです。

現在ちよママでは、Instagram をはじめ 4 つの媒体を主に運営しており、毎週金曜日には週末に行われる子育てイベントや、お出かけ情報を LINE で一斉配信する活動をしています。

しかし、運営は主にボランティアで行っているものが多く、すべての情報を網羅せず、地域での情報格差が生まれているのが現状です。千代田まちづくりサポートの助成金を活用して、区内全域に情報を広めるためのネットワーク作りや、子育て情報の発信を中心とした活動を行っていききたいと考えています。

Q & A

- Q これまで開催したイベントの費用は、どのように資金調達をされていたか教えてください。
- A 千代田区社会福祉協議会の助成金 10 万円を活用し、開催してきました。イベントの参加費もその費用に充てています。
- Q 今回採択されても、イベントはこれまでと同様の形で開催する予定ですか。
- A 継続してイベントは開催したいと思っています。ただし、千代田まちづくりサポートの助成金は、あくまで SNS での情報発信にかかる費用に充てるつもりです。
- Q 千代田区が主体的に行ってくれればとても良い活動だなと感じました。そのあたりは、千代田区にどのように考えているのか聞かれたことはありますか。
- A 千代田区や観光協会、社会福祉協議会逢やまちみらい千代田等、たくさんの方々と今までお話をまいりました。区主体のイベントの情報を、自主的にちよママのネットワークを通して配信したり、逆に配信をお願いしたりすることもありますので、活動において課題等があれば、相談する体制もできていると思います。今回 SNS を使って情報発信することで、行政だけでなく企業や個人、より多くの方々に会いたいと思っています。
- また、オフ会や勉強会を開催することで、より注目度の高い活動になっていくと考えています。
- Q SNS が苦手な人のフォローはどのようにされますか。
- A SNS が苦手な人が多いのも感じています。もともとイベントから始まった団体のため、ある程度のノウハウや土台があります。イベントとマッチングしながら、適切な情報発信に努めたいと考えています。
- Q 千代田区ではできない「情報発信」や「フォロー」の方法で、考えていることがあれば教えてください。
- A 千代田区は子育てに積極的で、その支援も充実しています。しかし、その情報が子育て世帯に届かないことが課題だと認識しています。ちよママが、そのような情報を一元化して、情報を求めている人に届けられるように活動していききたいと思っています。



審査会委員のコメント

9 年ほど前に保護者により設立された子育て中の保護者向けの任意団体で、活発な活動が継続されてきました。近年は普通になってきている、働きながら子育てをするファミリーは核家族化等により子育ての課題解決が困難な環境にあります。子育て世帯にとって有益な情報交換等により助け合うことでより安心安全な環境の実現に寄与しています。活動プログラムは多岐に渡りターゲット層もそれぞれ違うため、ニーズに合った内容を必要なタイミングで主に SNS で発信しています。今後は運営スタッフやサポートスタッフのスキルアップや発信頻度を高め、千代田区全域のニーズのある方へ行き届くよう充実化させていってほしいです。



審査会委員
柿内 健介

07

エンジョーイ 歌ンターレ CHIYODA

(た) 楽しく (ち) 力強く (つ) 繋り
(て) 手を取り (と) とともに千代田で歌おう



【代表者】加藤 茜 【活動メンバー】3名 【主な活動地域(場所)】番町地域 【部門】一般部門(1回目)

活動概要

千代田区にゆかりある音楽家をレクチャーで知ることにより、千代田区民が千代田区に興味を持ち、また、そのコミュニティに参加し、音楽を楽しむようになってほしいと思っています。コロナが明けた今、山田耕筈や滝廉太郎の作品と一緒に歌うことで、交流を深めたいと考えています。

発表概要

好きな童謡の第1位に選ばれた「赤とんぼ」は、千代田区に住んでいた山田耕筈という人が作曲しています。このような千代田区にゆかりのある音楽家を取り上げて、コンサートなどをしながら、自分たちが歌って健康になって、文化的にも豊かになる「エンジョーイ歌ンターレ CHIYODA」というコミュニティの立ち上げを目指しています。

伝えたいことが3つあります。

1つ目は、歌うコミュニティについてです。番町地域のマンションに私は20年以上住んでいますが、人とのつながりが希薄です。だからこそ、コミュニティの構築が大切だと思いました。コロナの影響で歌うことが、ほとんどできなくなりました。マスクを取ることができるようになった今だからこそ、歌うためのコミュニティを立ち上げられたらと思っています。

2つ目は、体と心の健康に良いコミュニティについてです。超高齢化社会になりつつあるので、健康寿命を伸ばすことが大切だと思っています。脳が活性化し、幸せホルモンのセロトニンが出たりするのも、歌を歌う効果の1つです。定期的集まって練習できるので、コミュニティを作るには良いと思っています。

3つ目は、千代田区にゆかりのある音楽家の中でも、山田耕筈を活動の1年目で取り上げます。山田耕筈と親交があったプロの室内合唱団の力をお借りしようと考えています。良い演奏は、プロの人でないと、難しいと思っているので、演奏はお任せして、歌と一緒に歌いたいと思います。

事前にレクチャーを企画して、また、まち歩きツアーなどを行いながら、コミュニティを大きくしていきたいと思っています。

お伝えしていませんでしたが、千代田区歌を作曲したのも山田耕筈です。ほかにも「花」という歌を作曲した滝廉太郎も、千代田区に住んでいました。そのような人たちを紹介しながら、参加者にコンサートやレクチャーでプロの合唱団と一緒に歌ってもらい、歌うことの楽しさを体感してもらうことで、歌のコミュニティの構築を目指します。



Q&A



- Q 参加者のターゲット層や集客方法をどう考えていますか。
- A 活動に参加する人をコンサートで募りたいと思います。ターゲット層に関しては、安定して練習ができる、ご年配の人が集まりやすいと考えているので、60代以上の方をターゲットに考えています。
- Q ピアノが常設されていない場所での開催となった場合、ほかの方法を考えていますか。
- A ピアノのある場所でのレクチャーを考えています。例えば、千代田区のホールなどもありますし、それ以外にもピアノがあるサロンもあるので、千代田区内のそのような施設を利用します。プロの合唱団であれば、ピアノは不要でアカペラができます。演奏の内容を変えれば、問題なく開催できると思います。山田耕筈は、ピアノ曲が多いので、ピアノはあった方が望ましいです。
- Q 応募するに至ったきっかけを教えてください。
- A コロナが明けて、大きな声で歌えるようになったということがきっかけの1つです。また、メンバーが、ほかの区で健康体操をやっている中で、良いコミュニティが形成されている話を聞いて、それを千代田区でできればと思ったことが応募の理由です。

審査会委員のコメント

皆が集まって歌を歌う。ようやくできるようになったこの時期だからこそのご提案だと思います。そして演奏会だけでなく、レクチャーやまち歩きと組み合わせるといった点がユニークであり、まちづくりにつながる取り組みだと評価します。どんな活動のハーモニーが生まれるか楽しみにしています。ご提案の活動は今回が初めてですので、いろいろ試し、楽しく継続できるようになることを期待しています。



審査会会長
後藤 智香子

08

スナックちよだ



サードプレイスのような、
誰でも気軽にアクセスできる居場所づくり

【代表者】花岡 火草 【活動メンバー】5名 【主な活動地域（場所）】千代田区内全域 【部門】はじめて部門

活動概要

これまで、千代田区役所の10階と飯田橋のカラオケ居酒屋で、スナックちよだを実施してきました。参加者が気軽に参加できることを最優先に考え、できるだけ参加費を低価格に抑えたいと思っています。スナックちよだに参加した人たちが、街で再開したときにあいさつできるような関係性を築くことで、セーフティネットの形成にも寄与すると考えています。

発表概要

私自身も参加した「ちよだをつなげる女性30人」が活動をはじめるきっかけです。参加した女性たちが「スナックちよだ」というチームを頑張って作り始めていたので、私も手を挙げて、メンバーとして参加しました。

今日は突然、活動企画内容の紹介することになり、緊張しています。活動内容は資料のとおりですが、コンセプトは「最初は小さく産んで大きく育ててみよう」ということで活動しています。

私が経験してきた仕事の中でも、斜陽になったスナック文化などについて、広告代理店さんと企画を作ったことがありました。しかし、社会情勢の変化により、その企画を実現できませんでした。

過去にそのようなことがありましたが、今回グループを結成し、その取り組みを現在進めているところです。やはり人と人とが触れ合いながら「飲む」「食べる」を一緒にする駆け込み寺みたいな役割を担っていったらと考えています。



Q & A



- Q 具体的に、どこを貸し切る予定ですか。
- A 過去にスナックを借りて、イベントを実施しました。グループメンバーの広い人的ネットワークがあるので、そこでの協力者を巻き込みながら、まずは小さくてもいいので活動を進めていきたいと考えています。
- Q スナックだと夜間というイメージがありますが、開催時間については決めていますか。
- A 実際にやってみないとわからない部分もあるので、グループメンバーで相談して、開催時間だけではなく、開催場所も今後決めていこうと思います。
- Q はじめは、少人数で開催するなど、飲食店の負担を考慮しながら活動を進めてみてください。開催時間についても、ターゲットによって、さまざまな時間を検討してください。
- A わかりました。ありがとうございます。
- Q 飲食店のPRにもなるので、ぜひ活動を継続してください。
- A ありがとうございます。
- Q 私は、AIが普及していく時代にあっても、スナックは不滅だと思っています。今後の展望を期待しています。これまでの集客方法で効果的だったことや、今後検討していることがあれば教えてください。
- A 数回開催した中で、細かなことを計算するよりも人とのつながりが重要だと感じました。人が人を呼ぶようなこの流れを大切にしていきたいと思っています。グループメンバーが1日ママさんをやっているのでも、ぜひ参加してください。

審査会委員のコメント

活動内容は日常とは違う環境で楽しく語り合うコミュニティ作りを目指されており、リラックスした雰囲気の中で異なる背景、異なる職業の人々が集まり、さまざまな文化や価値観が交流される場の醸成への取り組みであることから、スナックちよだは「憩いの場」や「居場所」の総称であると感じました。言葉のなじみややすさから、つい行ってみたいくなる不思議な魅力も感じます。千代田区内の昼間人口の10%未満である夜間人口が和やかに過ごせる「場」の提供を期待しています。可能であれば、協力いただける飲食店の営業負担にならぬようご配慮いただけると幸いです。活動成果発表を楽しみにしています。



審査会委員
吉田 渉

09

アマルフィファーム

ハーブ & 野菜の栽培による 遊休地活用及び 地域の子供たちの自然体験

現在の状況



きゅうり



とうがらし



バジル



山椒



ミニトマト



ペパーミント



しそ



カレンデュラ

※ 2023年7月現在

【代表者】松田 憲明 【活動メンバー】3名 【主な活動地域（場所）】六番町 【部門】はじめて部門

活動概要

遊休地でハーブ、エディブルフラワー（食用花）、野菜などの種をまいて、小さなファームを作っています。この菜園を、地域の方や子どもたちに開放して自然体験の場にしたいと考えています。また、野菜などを栽培し、収穫できた際にはそれを使った料理教室、食事会などをします。

発表概要

私の働いている場所は六番町の飯田ビルの4階にあるカフェです。そのビルの裏手に使っていない空き地があるので、そこを活用して、現在ハーブや野菜を育てているところです。実際にやることは、種まきから収穫までです。10坪ぐらいの土地ですが、1人での作業は大変なので、ほかのメンバーと一緒にできたらと思っています。今の時期は、きゅうり、ハーブ、エディブルフラワーという食べられる花を育てています。

活動に参加を希望している人はいます。ただし、特定の曜日しか参加できないなどの理由などにより、まだメンバーや参加希望者全員が集まったことはありません。「参加しやすい」「集まりやすい」ということを考えながら、活動を進めています。

今日もこちらに参加する前にファームへ立ち寄り、きゅうりを収穫できたので、持ってきました。1〜2か月前に苗を買って、六番町で育て、今日収穫したばかりのきゅうりです。こういったものを、最終的には参加者で食べることができればと思っています。苗や種から野菜が収穫できると楽しいし、やりがいを感じます。野菜を育てることの大変さを参加者で共有することでできたら、それも有益なことではないかと考えています。



審査会委員のコメント

都心の真ん中で野菜の収穫なんて何とも夢のある話です。さらに収穫した野菜を使って料理や食事会を催して、そこで番町の歴史やアート鑑賞をすれば必然的に街のコミュニケーションが形成されるでしょう。活動のエリアが限定的なので少人数での活動になると思われるが、これが持続していけば、有機的に輪が広がり、それによって番町の文化継承の発信地になっていくのではないのでしょうか。また、まちサポの他団体とも協働できるということなので、その広がりにも期待したいです。



審査会委員
小野寺 健志

Q & A



- Q すでに7名の参加希望者がいるとのことですが、ほかの地域の子供もたちの集客方法は、どのように考えていますか。
- A 今のところ、積極的に集客しようとは考えてはいません。畑のスペースも限られており、まずは知り合いや興味のある人に口コミで広がればと思っています。
- Q 活動場所を確保されていることやキッチンがあることは強みだと思います。食のイベントを行う予定のほかのグループにも協力してもらえるとありがたいです。
- A オーナーに確認します。
- Q 畑は誰でも入れる場所にありますか。また、道路からはどのように見えますか。千代田区には、園庭がない保育園がたくさんあります。保育園の園児たちが、散歩の途中で寄り添うことができると良いと思いました。
- A 畑は、ビルの裏の空き地にあります。きちんと整備された通路はなく、ビルの脇を通るような形になります。畑の場所を知っていれば、私と面識がある人は入ってもらってもかまわないと思っています。畑は、ビルの裏にあるため、道路からは見えません。
- Q 来年も野菜の栽培等の要望があった場合は活動を継続されますか。また、その場合は千代田まちづくりサポートの一般部門への応募を検討されますか。
- A 継続して活動する予定です。来年はまちサポの一般部門への応募を検討しています。
- Q 収支計画に記載の印刷費（カラープリント）について伺います。最近SNSが主流だと思いますが、チラシをコピーして配布の方が周知に効果的ということでしょうか。
- A こだわりはありませんが、ビルのオーナーが経営するアパレルショップのお客さんに子ども連れの女性が多く、ショップにチラシを置いてもらっています。

10 ちょダン

2023

みんなで千代田の名物ダンスを
つくろう!たのしもう!

ちょダン

みんなで千代田の名物ダンスをつくろう!楽しもう!

第23回千代田まちづくりサポート はじめて部門

【代表者】野口 幸代 【活動メンバー】4名 【主な活動地域(場所)】千代田区内全域 【部門】はじめて部門

活動概要

経験が無い人がダンスを楽しむ機会を作り、交流を図ります。互いに手を取り、尊重し、動きを合わせながら一緒に作り上げるダンスで、互いの心理的距離を近づけ関係性を深めます。区民の皆さんをはじめ、興味を持った人から協力を得て、千代田区オリジナルの「ちょダンス」を作る準備を進めます。

発表概要

「みんなで千代田の名物ダンスを作ろう!楽しもう!」というテーマで活動を行います。

千代田区は昼間人口と夜間人口の差が大きいことも有名です。在住者・在勤者・在学者をつなぐ活動ができればと考えています。また、あるマップ CHIYODA さんも言っていた「挨拶ができるようなまち」になればと思っています。

ダンスを通じて、子どもから高齢者まで多世代で楽しめる内容を検討しています。千代田区は人口の流動が大きい街ですが「これは千代田区の名物だよ」というようなダンスを区民の皆さんと一緒に作りしたいと思います。

1人で踊るダンスもありますが、ちょダンではペアで手と手を取り合って踊ったり、もしくは盆踊りのように輪になって踊ったりするようなそういうダンスを考えています。お互いに手を取り、尊重し、動きを合わせながら一緒に作り上げるダンスで、お互いの関係性を深めることができます。そして信頼関係を築くコミュニケーションで参加者をつなげます。また、パートナーチェンジをしながら楽しむダンスを通じて、顔見知りや挨拶ができる人が増え、新しい仲間となり、参加者がつながると考えています。

まずは、区民の皆さんがダンスを気軽に体験する機会を作ります。イベントを年内に2回計画しています。「ダンスは楽しい」と思っていたいただいたイベントの参加者と千代田区の名物ダンスと一緒に作りしたいと思います。



Q&A



- Q 「ちょダン(千代田の名物ダンス)」はどんなダンスか教えてください。
- A 決まっていることは「ペアで踊ること」です。また「手と手を取り合って目を合わせること」や「円になること」、「パートナーチェンジをするということ」です。これをダンスの主軸としたいと思います。イベントを2回行ったあとに、ダンスの構成等の検討を進めます。イベントの参加者の皆さんのアイデアを取り入れながらダンスを完成させたいと思います。

審査会委員のコメント

千代田のオリジナルダンスということで、一時子どもに人気を博した「パブリカ」のようなイメージがあります。ただ、子どものみならず大人やもっと高齢の方も一緒にできるダンスとは、いったいどんなものができるのか?ぜひ、千代田区が未来に向けて発信して、また幅広い人に愛されるダンスができることを期待します。また、曲についてみんなで考えるとのことで、例えば盆踊りでも、近年では「ダンシング・ヒーロー」が定番曲になっているなど、意外な選曲がフィットするかもしれません。ダンスづくりに集まった方々による予測できない展開が大きく花開くことを期待します。



審査会委員
千賀 行

会長総評

本日はお疲れさまでした。
非常に刺激的で大変有意義な審査会だったと思います。

今回はすべての応募グループが採択されました。前回から審査会委員として参加していますが、千代田区内で行われる皆さんの活動は、とてもユニークなものが多いと実感しました。まさに「多様性」という言葉が当てはまり、千代田区の「独自性」も感じました。

ほかの委員の皆さんが個々の活動に対してコメントされてきましたので、私からは審査会全体について話したいと思います。まずは、一言で「まちづくり」と言っても、それを形にするために行動に移すことは、とても勇気が必要で大変なことだと思います。しかし、まずは一歩を踏み出してみることが重要です。活動においては、楽しいことだけでなく、大変なこと、つらいこともあるかと思います。それをグループメンバーで共有して、活動の幅を広げていただければと思います。また、助成グループ同士での交流を促進し、横のつながりを形成しながら、活動のノウハウを共有することも大切です。活動での困りごとは事務局やまちプラさんに相談してみてください。課題解決の一助となってくれると思います。

今回はじめて応募されたグループの皆さんは、応募用紙の作成やプレゼンに慣れていないこともあったかも知れません。しかし、そのようなプロセスによって、自分たちが行う活動の意味

を見つめ直し、再確認することができたのではないかと思います。ほかの応募グループのプレゼンを聞くことで気づきや勇気ももらったりすることもあったかもしれません。これは、まちサポの本当の目的と言っても良いかもしれません。また、このまちサポは、活動の初期段階の手助けを主眼にしているものだという事です。活動をスタートさせるにあたり、資金面等で大変なところを、少しだけサポートして、活動を軌道に乗せていただくという趣旨の事業です。この助成を弾みにして、その後に羽ばたいていってほしいというのが事務局や私たち審査会の願いです。どうかこの趣旨や気持ちを理解していただき、皆さんが主役の「まちづくり活動」をますます盛り上げてください。

最後に千代田区の地域資源に光を当てる活動や地域の魅力向上につながるような活動をぜひ1年間継続していただければと思っています。また、継続的な活動の取り組みに加えて、新しいチャレンジにも期待しています。楽しい1日をありがとうございました。

審査会会長 後藤 智香子



審査会委員

会長 後藤 智香子
東京都市大学 環境学部 環境創生学科 准教授

副会長 三友 奈々
日本大学 理工学部 土木工学科 助教

委員 柿内 健介
神田地区 区民代表

委員 小野寺 健志
番町麴町地区 区民代表

委員 吉田 渉
興産信用金庫 地域支援部 副部長

委員 千賀 行
千代田区 コミュニティ 総務課長

委員 保科 彰吾
公益財団法人まちみらい千代田 理事長



はじめて交流会2023

今年度の助成グループ同士の横のつながりをつくることを目的に「はじめて交流会」を開催しました。



日時

令和5年9月11日(月) 18時~20時



会場

海老原商店(千代田区神田須田町2-13)

※第16回助成グループ(普請部門)「海老原商店を活かす会」の活動拠点



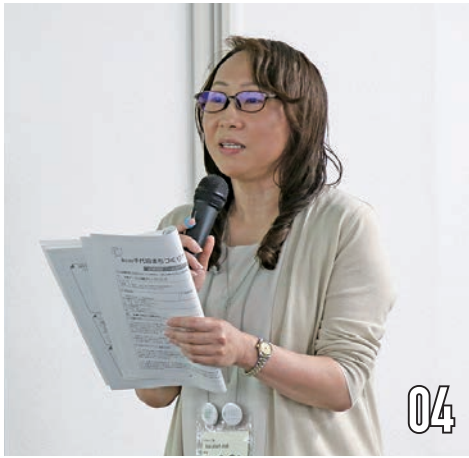
内容

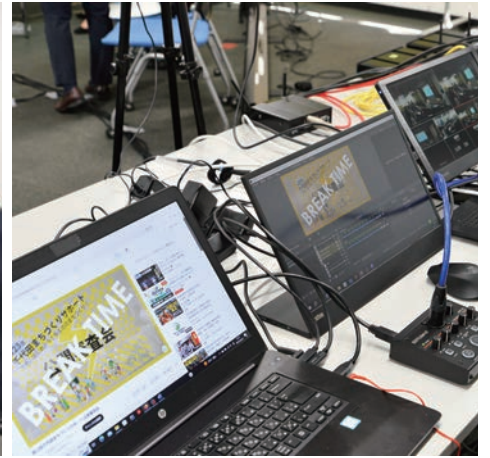
助成グループからまちづくり活動の進捗報告のほか、千代田のまちづくりについての意見交換が行われ、新たなコラボレーションが生まれるような展開を期待させる盛り上がりとなりました。

引き続き、(一社)千代田まちづくりプラットフォーム^(※)とまちサポ事務局は、千代田区でまちづくり活動を行うグループが活躍できるように応援します。

(※)市民のまちづくり活動のさらなる普及と拡大を図るため、助成グループOBと審査会委員経験者が中心となって設立した法人です。千代田まちづくりサポート事業を協働運営しています。









08
スナックちよだ
(千代田区内全域)



あるまっぷ

03
あるまっぷCHIYODA
(番町・麴町・九段下地域)



07

エンジョーイ 歌ンターレ
CHIYODA
(番町地域)



09
アマルフィファーム
(六番町)



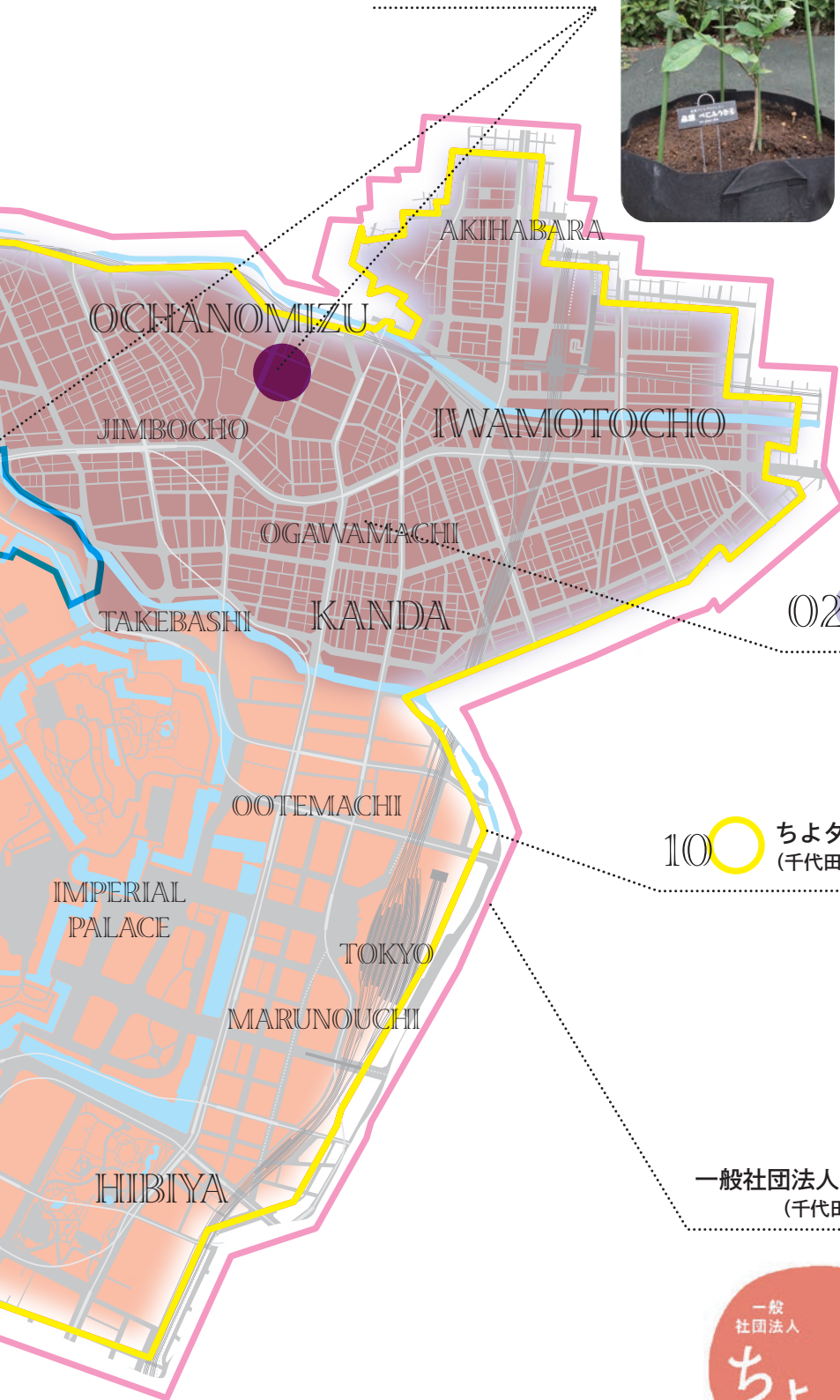
05
まちづくり・地域政策研究会
(麴町地域)

01
番町っこ倶楽部
(番町の森)



04

tea plant club
(番町の森、神田駿河台)



02 神田藍の会
(神田地域)



10 ちよダン
(千代田区内全域)



06
一般社団法人ちよママ
(千代田区内全域)



【事業協働運営先】 一般社団法人 千代田まちづくりプラットフォーム (まちプラ) メッセージ



**まちサポの“サポート”をはじめませんか？
一緒に活動してくれるメンバーを募集しています。**

私たち“一般社団法人千代田まちづくりプラットフォーム（まちプラ）”は、市民提案型のまちづくり活動の助成事業である「千代田まちづくりサポート（まちサポ）」を、公益財団法人まちみらい千代田と協働で運営しています。この千代田の“まちサポ”を「地域コミュニティ」とともに発展させていきたいという思いから、活動グループのOB・OGや歴代の審査会委員が中心となって結成されたのが私たち“まちプラ”です（2016年6月設立）。

千代田の“まちサポ”では、これまでの助成グループに加え、応募グループも含めた実に多くの方々とのつながりが生まれてきました。こうした仲間とともに千代田のまちづくりをさらに進めていくことが“まちプラ”の役割です。

問い合わせ info@machiplat.or.jp



まちプラ
ウェブサイト

賛助会員入会のご案内

公益財団法人 まちみらい千代田は、活動の趣旨に賛同いただいた個人・法人の賛助会員の皆さまのご支援によって、運営しています。今後の事業内容をさらに充実していくためには、多くの皆さんの深いご理解とご協力をいただくことが欠かせません。

当財団の活動目的に賛同し、支援してくださる賛助会員を募集しております。

皆さんからのご支援をお待ちしています。



年会費

法人会員 1口以上 1口：2万円
個人会員 1口以上 1口：3千円

申込方法

ウェブサイトから「入会申込書」をダウンロードし、必要事項をご記入のうえ、「公益財団法人 まちみらい千代田」宛てに FAX・郵送・E-mail、もしくは窓口にご提出ください。



まちみらい千代田
ウェブサイト

税法上の 優遇措置

- 年会費は、公益財団法人への寄付として、税制上の優遇措置が適用されます。
- 個人会員の場合、確定申告を行うことで所得税および住民税が寄付金控除の対象となります。
- 法人会員の場合、一般の寄付金とは別枠で損金算入が認められます。

千代田まちづくりサポート通信 No.41 発行 2023年10月

発行者 公益財団法人まちみらい千代田 協働まちづくり・総務グループ（まちづくりサポート事務局）
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア4階
URL <https://www.mm-chiyoda.or.jp> TEL 03-3233-7556 E-mail machisapo@mm-chiyoda.or.jp



まちサポ
特設サイト

